加美町　ホストタウン　検索

Hola!（オラ！こんにちは）オラが町

オリパラ通信 Vol.25

聖火リレーが宮城県にやってくる！

オリンピックの象徴である「聖火リレー」が**今月の19日から21日まで**宮城県で行われます。今回は、世界中で注目されている**「聖火リレー」**を紹介します。

近代聖火リレーまでの歩み

聖火リレーの由来はギリシャ神話にあります。神話によると、英雄のプロメテウスが人類の文明の進歩のために、ゼウスから**「火」**を奪いました。この出来事を記念として、古代オリンピック開催期間中に**「聖火」**が灯されていました。

近代オリンピックが始まった頃には聖火がありませんでした。再び聖火が灯されたのは1928年のアムステルダム大会でしたが、この時は開催期間中に聖火がメイン会場で燃え続けただけでした。

聖火リレーが登場したのは1936年のベルリン大会です。当時は、ギリシャのオリンピアにあるヘーラー神殿跡で採火された聖火が、3千人以上の聖火ランナーによってベルリン会場まで運ばれました。

こうして、聖火リレーは近代オリンピックの象徴となりました。

TOKYO 2020聖火リレー

TOKYO2020聖火リレーは**「Hope Lights Our Way/希望の道を、つなごう」**をコンセプトに、3月25日～7月23日までの121日間で行われます。福島県のJビレッジからオリンピックスタジアムまで各地域を繋ぎながら全国を巡ります。

美しく燃え続ける聖火トーチ

今大会の聖火リレートーチは桜の形をしており、花びらから5つの美しい炎が生み出され、どのような天気でも消えることなく燃え続けます。

トーチはアルミニウム製で、東日本大震災の復興仮設住宅に使用されたアルミニウムが含まれています。

聖火リレートーチ